



# 大すき汐入

11月号

## やさしい言葉で伝える

こうちょう おくろ ゆうこ  
校長 小黒 裕子

よく晴れた朝の青空に向かって影送りが成功したと喜んでいの子、冬野菜の種まき後に早く芽を出してねとお願ひしたり、腰を低くかがめて優しくお水をあげたりする子、鳥がお話しているねとヒヨドリのさえずりに気づいた子、登校時の短い時間の中でも友達や先生、自然と豊かにかかわり合う子どもの姿があります。これから寒くなりますが、早起きをしてゆとりをもって登校してほしいと思います。

さて、本校では異学年の子どもたちが8、9人のグループを組み、縦割りグループ活動をしています。先日の入船公園への遠足では、そのグループごとに楽しく遊びました。長縄では縄を回す高学年の子どもたちは低学年が跳ぶときはゆっくり回してくれました。6年生は下の学年の子に優しい言い方で並ばせたり遊びのやり方を説明したりしていました。疲れたのかしばらく座り込んでいた子には、高学年の子が「行くよ。」と声をかけると立ち上がって元気よく歩き始めました。高学年の子どもたちは、同学年の友達との接し方とは違った気配りや言葉遣いができ、リーダーシップを発揮している姿がありました。

上級生は目の前にいる人のことを考えてどういう言葉を使ったらいいか想像し、こう言ったら理解してもらえた、楽しんでもらえた実感し、下級生は優しい言葉をかけてもらってうれしかったことでしょう。この遠足で見られた思いやりのある言動が、広がってほしいです。

一方で、子どもたちの生活の中では相手を傷つける言動もしばしばみられます。相手に言いたかったことややってほしかったことをどうすればうまく伝わるのでしょうか。人をいやな思いにさせる「ちくちく言葉」をやめて気持ちを穏やかにする「ふわふわ言葉」、優しい言葉に置き換えることは簡単なことではありません。ですが、目の前にいる人に話すときは相手の顔をよく見て、手紙や端末で伝えるときは相手のことをしっかり思い浮かべて話すことを学校で指導していきますが、ご家庭でも話題にしていただけたらと思います。

もう一つは「易しい言葉」についてです。「易しい言葉」への置き換えが必要だということ、10月23日(日)の地域防災拠点開設訓練で教えていただきました。訓練では、地震が起きたときに避難所が開設されることを想定し、地域にある横浜市国際学生会館の方々も参加されました。振り返りのときに学生会館の方が、「易しい言葉」にして説明をしてくださるとありがたいというお話がありました。例えば受付では名簿に名前等を書くときに「記入してください。」ではなく「書いてください。」と言えば日本語が分かる方がいるということでした。

「易しい言葉」も「優しい言葉」につながります。思いやりをもって分かりやすい言葉で伝えることを心がけていきたいものです。

